

⑯国営明石海峡公園

国営明石海峡公園は、明石海峡大橋を挟んだ周辺地域の広域的なレクリエーション需要に応えるため、兵庫県淡路市の『淡路地区』と神戸市北区、西区の『神戸地区』の2地区を設置している。

■区分		イ	(設置目的)	—
■所在地		兵庫県淡路市(淡路地区)		兵庫県神戸市(神戸地区)
■面積	計画面積		96.1ha	233.9ha
	開園面積		40.4ha	41.3ha

■広域図



■年表

H7 年度	国営明石海峡公園(文化・交流ゾーン、海岸ゾーン)都市計画事業承認
H8 年度	国営明石海峡公園(神戸地区)都市計画事業承認
H13 年度	淡路地区第1期開園(30.1ha)文化・交流ゾーン及び海岸ゾーンの一部
H15 年度	淡路地区第2期開園(6.2ha)移ろいの庭、芝生広場
H16 年度	淡路地区第3期開園(0.9ha)ビジター棟、淡路ロゲート、芝生広場大型複合遊具
H22 年度	淡路地区第4期開園(2.3ha)淡路口駐車場、
H28 年度	淡路地区第5期開園(0.9ha)淡路口駐車場、細園路等
	神戸地区第1期開園(41.3ha)棚田ゾーン、森のゾーン、自然保全ゾーンの各一部

■コンセプト

	淡路地区	神戸地区
コンセプト	海辺の園遊空間	里地里山文化公園
基本テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○自然回復と望ましい環境形成を目指す ○「花」「海」「島」を活かしたランドスケープと園遊空間の場づくりを図る ○21世紀の快適な都市づくりとライフスタイルに新たな提案を行う ○周辺との連携で核となる整備を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史・文化を含めたこの土地の里地里山の景観を、新たな技術を導入しながら再生し、継承していくことを目指す ○国際都市神戸に位置することから、自然と人との共生という伝統的な日本人の自然観を海外の人々にも発信することを目指す ○誰もが利用できる都市公園というレクリエーションの場を活用して、里地里山文化を体感できるとともに、大規模な里地里山を「動態」として保全し、これを継承していく際のモデルとなる公園づくりを目指す ○環境保全と豊かな暮らしを同時に求める、持続可能な新しいライフスタイルの提案を目指す
理念	自然と人との共生、人と人との交流	
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ○環境・人に関する方針 ・よりよい環境を創造する公園本来の使命を果たす一方、計画・整備・管理段階で、環境保全に対しても最大限の配慮を行う。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ、省資源、リサイクル、緑化による二酸化炭素の吸収などで地球温暖化やヒートアイランド現象などの地球環境への負荷を減らすなど、新しい技術を導入しつつ、国土建設分野の環境建設技術のモデルとなる公園づくりを目指す。 ・環境を保全しながら自然と人とのふれあいが保たれた環境を創造し、環境に対する理解を深めつつ、生物多様性保全の重要性を発信する拠点となるよう配慮する。 ・少子高齢社会・高福祉社会に対応した公園のノーマライゼーション化を図る。 ・土取り場跡地における「自然の再生」を通じた花と緑あふれる公園づくりを淡路地区で進めるとともに、神戸地区は大都市に残された貴重な里地里山における「自然の保全」を通じた新たなライフスタイルを提案する拠点となるよう配慮する。 <p>○利用等に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優れた山や海の自然環境のもとでの自然との多様なふれあいの場 ・豊かな自然の中での家族や異世代さらに世界の人々との多様な交流の場 ・幅広い交流を通じて日本文化の継承 ・新しい文化の創造・発信の場 ・滞在型レクリエーション拠点の創出の場 ・多様なレクリエーション特性を有する周辺地域と一体となった広域レクリエーションゾーン形成の拠点となる場 <p>○ランドスケープデザインに関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や歴史・文化を活かし、継続するランドスケープを実施する。 ・ランドスケープデザインの実施にあたっては、過去から現在に至る世界や日本の優れた技術を幅広く活用するとともに、環境共生技術や景観シミュレーション等の新しい技術も活用する。 ・基本計画におけるトータルデザインの主張が、設計・整備そして管理の段階まで継承され結晶されるよう、措置をとる。
--	---

■施設

淡路地区	滝野テラス	水上につくられたテラス。岩の合間から流れる7つの滝の音を感じながら、のんびりと水辺のお散歩が楽しめる。
	月のテラス	紀淡海峡につながるダイナミックな風景が楽しめるっておきのビューポイント。ネモフィラの咲く季節には、空と海とネモフィラの青がとけあう風景が楽しめる。
	空のテラス	淡路特産の瓦を使った小庭園で、園内の緑と空と大阪湾の海が見渡せる見晴しスポット。

	たこさん花壇	東浦口ゲートを入れてすぐのところにある“明石”ならではのたこをモチーフにした立体花壇は、いつでも季節ごとの花でお出迎え。
	花火鳥花壇	阪神・淡路大震災からの再生と復活の祈りを込めた高さ4m長さ30mの花火鳥は大人も見上げる大きさ。季節により花の種類が変わり、花火鳥も衣がえする。
	大地の虹	春はチューリップ、夏はヒマワリ、秋はコスモスと季節の花々が虹のように咲きほこる。まるで、虹から虹へと散歩しているような雰囲気が味わえる。
	花の中海	スワンボートに乗って、中海と水路をめぐりながら、四季の花の色や香りを感じられる。かわいいカモたちとのふれあいも楽しみのひとつ。
	海のテラス	園内で最も海に近いテラス。大阪湾の海はもちろん、天気の良い日には本州の山々もくっきり見ることができる。
	滝のテラス	水上つくられたテラス。岩の合間から流れる7つの滝の音を感じながらのんびりと水辺の散歩が楽しめる。
	花の丘道	のんびりゆっくりお散歩しながら一年中さまざまな花が楽しめるこみち。
	子どもの森	ユニバーサルデザインを取り入れた大型遊具。まるで迷路みたいに大きなジャングルジムやすべり台など、子どもたちの冒険心をくすぐる遊具がいっぱい。
	夢っこランド (大型複合遊具)	風・花・水をテーマにした長さ130m高さ14m幅40mの関西最大級の大型遊具。すべり台やぶらんこ、ターザン滑車など150もの遊具がある。
	ポプラの丘、移ろいの庭、パームガーデン、スワンボード、バーベキュー広場、芝生広場、じゃぶじゃぶ池、夢ハッチ号(トラムカー)、花の島、藤だな、水の棚田、花の谷、松の谷、水の岩戸、天壇テラス、春一番の丘、風の丘、レストラン花栈敷、売店	
神戸地区	伝庫の家と農家のにわ	移築された茅葺き民家「伝庫の家」。里山ならではのおもてなしでお迎え。
	里山情報館	公園のインフォメーションセンター。見どころやイベント情報など公園の魅力を発信
	農村舞台	藍那集落にあった茅葺きの農村舞台を再現。伝統芸能をはじめさまざまなイベントを催す。
	里山交流館と木工棟	環境学習やセミナーなどを行う「里山交流館」と工作などクラフト体験ができる「木工棟」
	白拍子の家	源義経の伝承が残る地“白拍子(しらべし)”。移築茅葺き民家にて収穫物など里山の食が楽しめる。
	小野水田	農作業や収穫などの体験プログラムを行う水田、畑、蓮田が広がる谷間の里地

相談ヶ辻の家	一ノ谷の合戦にまつわる伝承の地「相談ヶ辻」。農作業や収穫体験活動の拠点
めだか池	水辺の生きものが観察できる「めだか池」と収穫体験が楽しめる「くり林」、「かんきつ山」。
遊びの森	雑木林の中に作られた遊び場。4つの大型すべり台などの遊具で楽しめる。
白拍子棚田、白拍子だんだん畑、盆処の丘、代ヶ谷棚田、里山美林、つつじの広場、せせらぎの小道、トラムカー	



■園内図



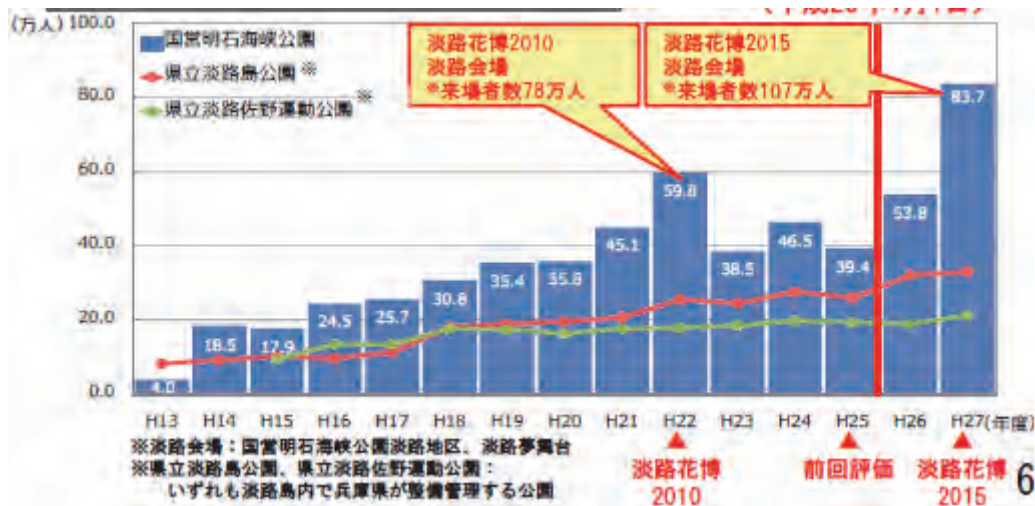
<入園料>

公園入園料	シルバー (65歳以上)	大人 (15歳以上)	小人 (小中学生)
一般	210円	410円	80円
団体		290円	50円

<駐車場>

■管理

利用者数	537,000人(H26)
マスコミ報道等件数	619件(H26)
ホームページのアクセス数	351,260件(H26)



<H29 重点管理項目>

植物管理

(淡路地区)

○高度な植栽技術、デザインの工夫による季節の花の風景づくり

チューリップ、ダリヤ、コスモスなど四季折々の花修景や、多品種で立体的にデザインした花壇などの高度な植栽技術によって、季節ごとに関西屈指の花の風景づくりを行う。およそ5年ごとに開催され淡路島全島各地で花、食、歴史、暮らしなどの魅力発信を行う“淡路花博”の期間においては、拠点施設の一つとして、大規模な花修景や情報発信を行う。

地域連携

(淡路地区)

○周辺施設との連携による公園運営

隣接する、世界的な建築家安藤忠雄氏設計の淡路夢舞台のホテル、植物館、国際会議場や、周辺の公園、観光施設等との連携により、個性的で魅力ある利用コンテンツの開発を進める。

また、公園の北側で進められている淡路市夢舞台サスティナブル・パーク創造事業と連携し、当地区の良好な都市生活基盤の形成に貢献する。

(神戸地区)

○市民団体との協働

神戸地区では整備段階から協働で公園づくりを行ってきた市民団体のボランティアの方々が、里地里山に関する知恵や技術を活かし、自ら楽しみながら公園の魅力や楽しみ方をお客様に伝えることで、温かいおもてなしが行われる。より一層の魅力アップに向け、引きつづき協働・連携を進める。

施設管理

○バリアフリーの促進

高齢者や小さなお子様連れにもやさしい公園障がいを持つ方が花や自然を楽しむことのできるイベントの充実や休憩コーナーの増設など、より多くの方に満足いただけるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを意識した運営を行う。

○安全な公園利用のための施設改修

(淡路地区)

- ・安全で快適な公園としての機能回復のため、老朽化した園路、遊具、放送通信施設などの施設改修を進める。
- ・「国生みの島」の神話の舞台となった海の眺めと波音や香り、陽のひかり、風を五感で感じられる場所、海と山の自然に包まれながら、アウトドアのアクティビティやスポーツを楽しむことができる開放的な場所として、海岸ゾーンを整備、リニューアルを行う。

(神戸地区)

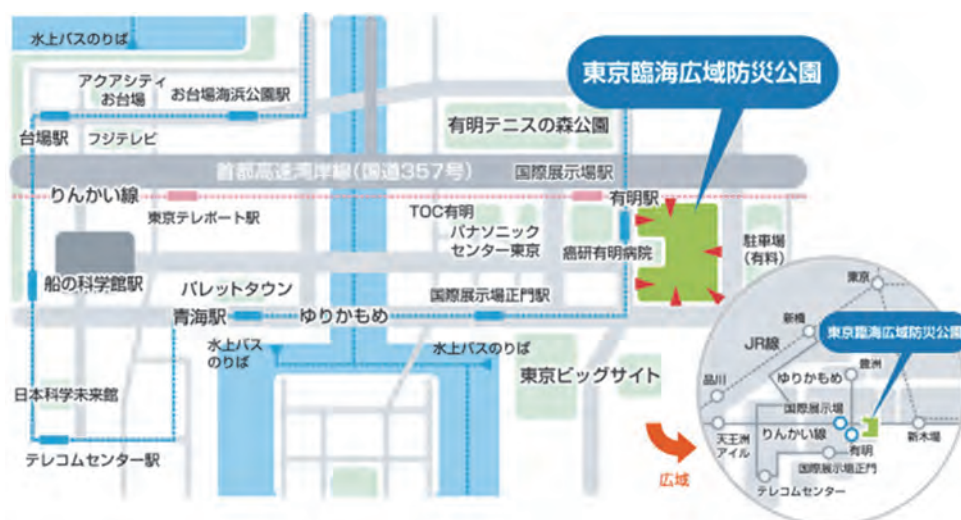
- ・茅葺き民家の持続的な維持管理のため、茅葺き屋根材の生産場となるかや場の整備を行い、自然と共生する里山の営みの体験の場の充実と施設補修のコスト縮減を図る。

⑰ 国営東京臨海広域防災公園

営東京臨海広域防災公園は、都市再生プロジェクトの一環として設置された。首都圏で大規模な地震災害等が発生したときに公園全体が広域的な指令機能を受け持つヘッドクォーターとなり、平常時には防災に関する学習・訓練・情報発信などの拠点として機能する基幹的な広域防災拠点。都立公園と一体的な管理運営が行われている。

■区分	イ	(設置目的)	—
■所在地	東京都江東区		
■面積	計画面積	6.7ha	
	開園面積	6.7ha	

■ 広域図



■ 年表

H13(2001).6	都市再生本部会議(第2回) 都市再生プロジェクト第一次決定において「東京湾臨海部における基幹的広域防災拠点の整備」が位置づけ
H14(2002).7	首都圏広域防災拠点整備協議会(第5回) 具体的な整備箇所(有明 a の丘地区、東扇島地区)及び整備手法等を決定
H14(2002).12	国営公園として事業化
H15(2003).3	都市公園法施行令の一部改正
H15(2003).11	都市計画決定
H16(2004).1	首都圏広域防災拠点整備協議会(第7回) 東京湾臨海部基幹的広域防災拠点整備基本計画を決定
H16(2004).2	都市計画事業承認
H16(2004)度	液状化対策工事着手
H17(2005)度	本部棟建築工事着手
H19(2007)度末	本部棟建築工事完成、液状化対策工事完了 平成20年6月本部棟(有明の丘基幹的広域防災拠点施設)の供用開始
H20(2008)度	園地、体験学習施設の整備
H23(2011)度	平成23年度東京臨海広域防災公園全面開園

■コンセプト

テーマ	
理念	川崎市東扇島地区に整備された発災時における物流のコントロールセンターと連携して基幹的広域防災拠点として大規模災害に対処すること
基本方針	

■施設

防災拠点施設 (本部棟(体験施設、学習施設))	<p>災害発生時には国と九都県市※の合同現地対策本部が設置され、平常時には防災に関する学習・情報発信の拠点となる防災体験学習施設等が整備されている本公園の中心施設。</p> <p>鉄筋コンクリート造2階建て延べ床面積約 9,500 m²で、屋上は緑化されている。</p> <p>1階の防災体験ゾーンでは、首都直下地震の発災から避難までの行動を体験できる「東京直下72hツアー」により、大地震等の大規模災害発生時に災害に関する対処について知識、技術、自助・互助・共助の意識について体験・学習を通して習得できる。</p> <p>2階の防災学習ゾーンでは、首都直下地震をわかりやすく紹介する首都直下地震特設コーナー、PCコーナー、自助体験コーナーなど様々な学習プログラムを利用できる。</p> <p>また、「防災」をテーマにした各種体験プログラムや講習会などに利用できるレクチャールームを使用して防災を学ぶことができる。</p>
ヘリポート	大型ヘリコプターの離発着に対応できる面積約 2.6ha のヘリポート。7機分の駐機場も併設され、平常時は各種防災訓練等の場として利用される。
エントランス広場	発災時には災害時医療支援用地として使用されるスペース。 平常時は屋外での防災学習や訓練の場として利用される。
多目的広場・草地広場	発災時には、広域支援部隊等のベースキャンプ等の場となる。 平常時は各種防災訓練の場や来園者の憩いの場として利用される。



■園内図

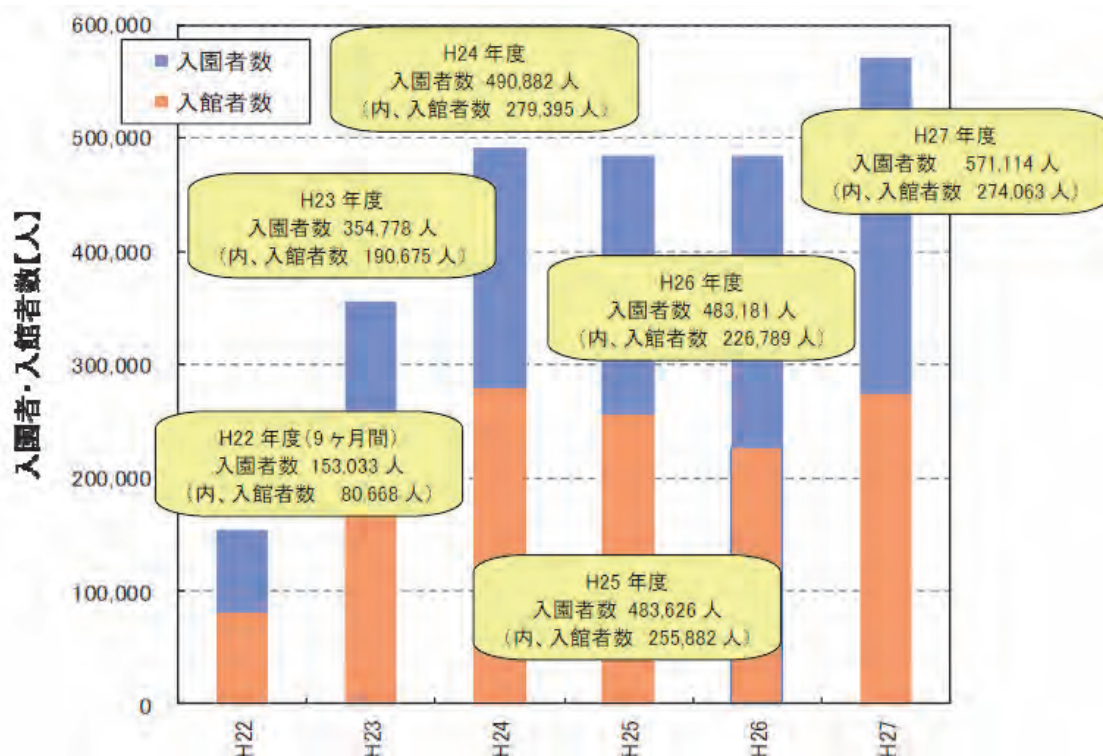


<入園料金>

無料

■管理

利用者数	571,114 人(内、入館者数 274,063 人)(H27) ※入館者数=防災体験学習施設の利用者数
マスコミ報道等件数	105 件(H26)
ホームページのアクセス数	154,991 件(H26)



※入館者数＝防災体験学習施設の利用者数

<ボランティア>

ボランティア名	活動内容
ガーデんクラブ	花壇ピンチ、プランター草花捕植
そなエリアクラブ	防災ゲームや防災アドバイス、防災イベント、防災ワークショップ等の提案・実施

<H29 重点管理項目>

植物管理

- ・公園内花壇等の手入れ・花緑ワークショップなどを実施するボランティア「ガーデんクラブ」との協働による公園管理を進める。

地域連携

- ・隣接する都立公園と一体となった管理運営を行う。
- ・ボランティアとの協働による公園管理を進める。
- ・地域住民や近隣施設との連携による行催事を積極的に実施する。
- ・訪日外国人旅行者に対するサービス向上のため、外国語ツアー対応や無料公衆無線 LAN 環境の整備の検討を進める。

施設管理

- ・ 防災体験学習施設を中心に、提供するプログラムの充実を図る。
- ・ 防災に関する各種イベントを充実させ、利用者増を図る。
- ・ 防災体験学習施設としての更なる活用促進のため、関係機関等との連携を図り、防災学習効果の向上を図る。